



# オオサンショウウオに

## 魅せられて

Vol.96

廣兼 <sup>たけし</sup>健さん  
(錦町在住)

特定非営利活動法人  
ほっとにしき職員。オ  
オサンショウウオの一  
時保護施設で飼育員を  
務め、100頭以上の世  
話に汗を流す。



岩国市錦町、清流錦川の支流の宇佐川を中心に生息し、国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオ。保護施設で100頭以上のオオサンショウウオの飼育を担当しているのが廣兼健さんです。

錦町出身で周りを畑や昆虫に囲まれて育った廣兼さん。大学では農学部で農作物に有益な昆虫としてアメンボなどを研究していましたが、卒業後は東京で経理を担当する仕事に就職します。その後錦町にUターンしていた廣兼さんは、地元で開かれた日本オオサンショウウオの会の全国大会で宇佐川のオオサンショウウオが危機的に痩せているという報告に強く興味を持ちます。それが転機となり、大会直後に始まった保護事業の飼育員を引き受けることになりました。

宇佐川付近で生まれ育ったものの実際に野生のオオサンショウウオを見たのは小学生の時に1度だけ。「これまで熱帯魚などの飼育経験はあったので、正直オオサンショウウオも簡単に考えていた」そうですが、実際はそんなに単純なものではありませんでした。「餌は一日当たり体重の千分の1程度しか食べないので量の調整が難しく、水槽の温度が高すぎると弱り、低すぎるとカビに感染するなど、飼育は答えのない問題のようです」と話す廣兼さん。今では1頭1頭性格に違いがあることが分かるようになったといいます。そんな廣兼さんでも「オオサンショウウオが発する生臭い匂いには今でも慣れません」と笑います。

夜間調査で川の深みにはまったり、雪の降る中、幼生調査を行ったり大変なことも多い保護活動ですが、保護した個体が元気になり放流できた時は感無量の思いだったそうです。

保護活動以外にも、各地での展示や宇佐川での夜間観察会などで一般の人にオオサンショウウオへの興味を持ってもらおうと奮闘する廣兼さん。「オオサンショウウオをきっかけに身近な自然についても考えてもらえれば」と語ってくれました。

▼夜間観察会で見つかったオオサンショウウオを測定する廣兼さん



宇佐川付近で生まれ育ったものの実際に野生のオオサンショウウオを見たのは小学生の時に1度だけ。「これまで熱帯魚などの飼育経験はあったので、正直オオサンショウウオも簡単に考えていた」そうですが、実際はそんなに単純なものではありませんでした。「餌は一日当たり体重の千分の



▲各地でオオサンショウウオの展示活動を行っている



▲回復したオオサンショウウオを宇佐川に放流する廣兼さん